

CINEX Web Journal



第1号 創刊号 発行日 2016年12月1日

巻頭言 (Web Journal のオンライン発行に寄せて)

会員各位

平素は異文化間情報ネクサス学会(CINEX)の活動につきまして多大なご支援を賜り、ここに役員一同心より御礼申し上げます。

さて、これまで、CINEX発行の学術機関紙 *I'NEXUS*におきましては、学会の沿革および学会による著作物・定例・年次大会などの詳細を記した形式で発刊し、会員が自身および同僚会員の研究動向などをアーカイブしやすい状況にありました。しかしながら2015年度より、*I'NEXUS*に対して、より一層の学術性を付与したいとの思いから、まずはISSN番号を取得付与すると同時に、沿革および業績等の付帯情報は割愛させていただくことといたしました。これにより、飛躍的に充実した定期刊行物へと変貌したことは確かですが、逆にこれまでの定例発表・年次大会発表・学会関連業績の内容が見えなくなってしまったのも事実です。

そこで、そのような不具合を改善するために発行させていただくこととなりましたのが当Web Journalとなります。Journalと称しますから、そのような情報をメインに立てるわけにも行かず、ならば会員の学会の方向性と連動するような内容のエッセイを会員順に掲載させていただき、少なからず会員間の心理的距離の圧縮に資すればと考えております。

今般第1号を発行することとなりましたが、今後は年2回の発行となりますので、どうか*I'NEXUS*ともども、この機関紙をご贖いいただけましたら幸いです。

12月吉日

会長 浅間正通 (静岡大学名誉教授・東洋大学教授)

創刊号 目次

- | | |
|--------------------------------|-------|
| ★ ビジネスコミュニケーション（授業）における人材育成の試み | 小林 猛久 |
| ★ サウジアラビアからの女子留学生を迎えて | 西村 厚子 |
| ★ 海外短期英語留学：フィリピン留学の薦め | 伊東 田恵 |
| ★ 編集後記 | 大森 夕夏 |

ビジネスコミュニケーション（授業）における人材育成の試み

和光大学 教授 小林猛久

私は、10年前にビジネスコミュニケーションを専門領域とする教員として和光大学に着任した時、ビジネスの場面において聞き手のニーズを正確に把握するとともに、そのニーズに即したわかり易い提案を行うことができる「知識」や「判断力」、そして、その提案に共感と理解を得られるような表現力を身につけさせるという目標を定めました。しかしながら、そうした能力を大学の教室の中でどのように指導し、養成するのかについては、苦悩する毎日でした。そのような時に、川崎商工会議所の有志会員で組織されている川崎異業種研究会と連携を行う担当者に就任し、産学が連携して新商品や新ビジネスプランの開発などを行う場を得られたのです。

学生たちはこれらの活動に参加して、創造性を豊かにし、考案したアイデアを具現化するとともに論理的に表現するといった力を養成できるようになってきました。特に、依頼主や販売先の方々から、言葉使いが不適切、表現が曖昧であるという苦情や見積書や請求書の計算間違いなどの指摘を厳しく受けることは、学生たちにとって大変良い薬になりました。大学や家庭内で周囲から基礎学力不足の指摘を受けても真剣に受け止められない

学生が少なくありませんが、本活動において連携先の方々から指摘を受けた後には、厳重な書類チェックや受け答えの練習などを行うようになり、二度と同じ過ちを繰り返さないようにしようという意識や姿勢が芽生えたのです。そして、その時に教員から適切なアドバイスをを行うことによって、実社会において即戦力として通用する人材の育成が可能となることがわかりました。

さらに、外部機関からの評価を受けることも積極的に取り組んだ結果、学生が開発した知育玩具「書き消しポン」が、日本経済新聞 2013 年 4 月 25 日朝刊で同社の「キャンパス発 この一品」という企画で取材された約 50 品目のうち、第 7 位に選ばれるなど、各種の好評を得ましたことは、大きな成果となりました。

今後も、実社会との連携活動を通じて、マナー、積極性、論理的な表現力、協調性などを育成することを、ビジネスコミュニケーションにおける指導目標として日々の教育に取り組んでいきたいと考える次第です。

サウジアラビアからの女子留学生を迎えて

共立女子短期大学 教授 西村厚子

本学の英語コースでは、担当しているゼミにおいて年に数回、学内外の留学生を授業に招いて交流しています。今年度はサウジアラビアからも女子留学生を迎えました。短大生にとってサウジの方と交流するのはもちろん、同年代のイスラム教徒と直接話すことも初めての経験です。スカーフを纏わずに破れたジーンズを今風に着こなす S さんを見て、意外だと感じた学生もいるでしょう。私自身「サウジの若い女性たちはグローバル化の影響で欧米のファッションを取り入れつつあるのかしら…」などと思っていました。

ある日、交流授業の様子を撮影していると、S さんが撮影の目的を尋ねるので、学園広報のためだと答えました。すると、「紙媒体は構わないのですが、(学園ホームページなど)インターネット上には私の写真を掲載しないで下さい」と言うのです。詳しく聞いてみると、以前カナダ在住の叔母様がヒジャブを身に付けて外出した際、イスラム教徒に対するヘイト・クライムの標的となり、銃で頭を打たれて瀕死の重傷を負ったそうです。それ以来彼女は非イスラム文化圏で活動する際にヒジャブを纏わず、欧米の若者を模したファッションを身に付け、イスラム教徒であることを特定されないように細心の注意を払ってい

るとのことでした。自分の趣味や嗜好のためではなく、身を守るために欧米風のファッションに身を包んでいるわけです。逆にそのような姿を母国の人たちが目にすると、不信心・西洋かぶれとの誤解や誹謗中傷を受ける可能性があるため、インターネット上の写真公開は NG なのです。

このように一人の人間として留学生と話をすることで、相手の人生や生活がより具体的にイメージできるようになります。メディアの報道では見えてこないリアルな異文化の姿に学生たちが出会えるよう、これからも草の根の交流を続けていきたいと思います。

海外短期英語留学：フィリピン留学の薦め

豊田工業大学 准教授 伊東田恵

グローバルに活躍できる人材に必須とされるのが「英語運用力と異文化コミュニケーション力」です。筆者の勤務する豊田工業大学でも、将来の「国際産業リーダー」の育成を目標に、留学や海外インターンシップに力を入れています。夏期の短期語学研修先は、従来アメリカのみでしたが、2013年からマレーシアとフィリピンを追加しました。

実際、英語を母語としないアジアの国を英語研修先にすることは、治安面も含めていろいろな議論もあり、学生の反応も未知数でした。しかし、結果としてフィリピンは人気の留学先となりました。学生は1日4時間のマンツーマン授業を含む8時間の授業の「スパルタコース」に参加します。3食付の寮費と渡航費込みでも参加費用が30万円に満たないことが人気の理由の一つだと思います。大学との提携もあり、近隣の大学の施設が自由に使用できて研究室の訪問や大学の工学部の講義の聴講、実験への参加も可能です。現地大学生とのバディ制度や交流会、マングローブ植林ボランティア活動への参加などを通じて現地の人々と交流する機会も多く、帰国後もSNSなどでフィリピンの教員や友人と連絡を取り合う学生も多いです。

フィリピンの人々は陽気で明るく社交的です。そして彼ら自身も英語を第2言語（公用語）として苦労して習得してきているため、英語が不得手な相手にも優しく親切に接してくれます。周囲を気にして恥ずかしがったり、間違いを嫌ったりして積極的に英語を話すことをためらう日本人学生にとっては、実践的な場でコミュニケーションの経験を積むにはうってつけの場所と言えるでしょう。とはいえ、アジアは英語の短期留学先としてまだ

まだマイナーな地域です。本当はアメリカに行きたかったけれど、費用が高額（約 60 万円）なためフィリピンを選んだ、と言うのが多くの学生の本音です。しかし、帰国後のアンケートでは、フィリピンの総合的な満足度は常に高く、アメリカを上回ることもあります。総じてコストパフォーマンスが良く、英語をしっかりと勉強でき、貴重な海外経験をえられるフィリピンを留学先としてぜひ薦めたいと思っています。

◆編集後記◆

本会は、さまざまな分野の研究者や教育者が出会う場となっており、定例会・年次大会の開催、学術雑誌・大学教科書・一般向け著書などの発行を通して、活発に公的活動を行う一方、懇親会では和気あいあいと親睦を深めながら情報交換を行うなどして人間的な交わりも大切にしております。この度、その活動に **Web Journal** が加わることとなり、ちょうど公的な発表と懇親会で交わされる情報の中間を占めるような内容をお伝えする場を新たに設けることができました。本機関誌が新たな情報交換の場となり、会員間の交流がさらに活性化していくものと期待しております。会員の皆様に順次執筆をお願いしていくこととなりますが、ご協力くださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

大森夕夏（東京電機大学 専任講師）

異文化間情報ネクサス学会

CINEX Web Journal

第 1 号 創刊号 発行日 2016 年 12 月 1 日

発行者：異文化間情報ネクサス学会会長 浅間正通

Circle of Intercultural-information and Nexus

本部：〒351-8510 埼玉県朝霞市岡 48-1

東洋大学大学院研究棟 4F403 室

© 2016 CINEX